

1

アルコール依存症家族の実態について

Actual situations of alcoholic family



埼玉県立精神医療センター
 副病院長

成瀬 暢也
 Nobuya Naruse

Summary

アルコール依存症家族の実態について、筆者らが実施した2度の全国調査の結果を基に報告した。家族が当事者の飲酒問題に気づいてから支援に繋がるまでに5.5~7.0年を要しており、その理由は「相談先が不明」69.9%、「世間体や偏見」42.9%であった。また、当事者が比較的良好な経過の家族であってもストレス状況は深刻であり、重篤なストレス状態15.9%、高いストレス状態58.8%であった。ただし、家族がグループに繋がっていることで明らかにストレスは軽減しており、当事者に対して良好な対応ができるようになっていることがわかった。家族は当事者の治療の補佐役ではなく、家族自身を主役とした支援が必要であると考えられる。



Key Words

アルコール依存症, 家族, 実態調査, ニーズ, 家族支援

はじめに

アルコール依存症の治療・支援が十分とはいえないわが国において、その負担は家族に向かうことが多い。その実態を把握し、家族に必要な支援は何かを明らかにすることは重要である。

筆者らは、これまで2008年と2015年にアルコール依存症および薬物依存症患者の家族の実態とニーズに関する全国調査を実施した。この調査結果から、「アルコール依存症患者の家族の実態とニーズ」に関して概要を報告する。

2008年調査¹⁾では、調査経路が公益社団法人全国断酒連盟（以下、断酒会）81.9%、医療機関 12.0%から2,032人の回答を得た。2015年調査²⁾では、「支援に繋がって問もない家族」に焦点を当て、医療機関 47.9%、断酒

会 45.6%から525人の回答を得た。これらの調査から得られた結果を基に、家族の実態について考察し、実態を踏まえた望ましい家族支援について述べたい。

アルコール依存症家族の全国調査より

2008年に依存症患者の家族についての全国調査を実施した。このとき、2,032通の回答を得て回収率は30.2%であった。アンケートの回収先は断酒会が81.9%、医療機関が12.0%であり、断酒会の家族が中心の調査結果となった。当事者 79.3%が断酒しているという良好な状況の母集団であったが、家族のストレス状況をGHQ12（General Health Questionnaire12項目版）（[図1](#)）尺度で評価すると、高いストレス状態（3点以上）が58.8%を占めており、重篤なストレス状態（10点以上）が